

別記様式2

開発調査推進会議報告書

会議責任者 開発調査センター所長

- 1 開催日時及び場所 日時 平成29年3月6日(月) 13:30～17:30
場所 クイーンズフォーラム会議室D
- 2 出席者所属機関及び人数 15機関 40名

3 結果の概要

議 題	結果の概要
1. 開会	開発調査専門役が開会を宣言した。
2. 挨拶	理事長が主催者挨拶を行った。
3. 資料確認	開発調査専門役が資料の確認を行った。
4. 委員紹介	開発調査専門役から委員の紹介を行った。
5. 座長選出	規程により理事長が、座長として開発調査センター所長を指名した。
6. 議事	
(1) 開発調査推進会議の役割について	開発調査推進会議の役割と今後の開催時期等について開発調査センター副所長より説明した。
(2) 開発調査等の28年度の実施状況と29年度計画について	各グループ毎に開発調査等の28年度の実施状況と29年度計画について報告し、それに基づいて協議した。
1) 底魚・頭足類開発調査グループの開発調査について	<p>底魚・頭足類開発調査グループリーダーから、いか釣、沖合底びき網の各事業について報告した。 出席委員等からの主な意見は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LEDのイカ釣の結果はいろいろな成果が出てきている。次の展開を期待したい。 ・LEDは現場サイドでは釣獲率が落ちるということで導入が進んでいない。獲れないということではないので、折角の技術を工夫して、現場で採用できるレベルまで持って行ってほしい。 <p>以上の意見等を加味して次年度調査を実施することとした。</p>
2) 浮魚類開発調査グループの開発調査について	<p>浮魚類開発調査グループリーダーから、遠洋かつお釣、遠洋まぐろはえなわ、海外まき網、漁船ビッグデータの各事業について報告した。 出席委員等からの主な意見は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FADs操業で小型魚の混獲に効果が現れている。FADsの小型魚混獲は前からの課題であり、ぜひ当業船でも使えるものにしてほしい。 ・自動釣機に期待をしている。すべてを全自動化でやるのか、半自動化にするのかという論点がある。また、針掛かり、外しなど機械に出来るかが疑問。もし、遠洋で実証されれば、近海への波及も可能と考えており、ぜひお願いしたい。

議 題	結果の概要
<p>3) 資源管理開発調査グループの開発調査について</p>	<p>以上の意見等を加味して次年度調査を実施することとした。</p> <p>資源管理開発調査グループリーダーから、近海かつお釣、沿岸課題の各事業について報告した。 出席委員等からの主な意見は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東沖操業は、毎年1月終わりから2月初めに出漁し、2航海目からは漁が無く、操業日数が増えている。資源の話は別として、三陸沖に上がる漁の終わりが極めて早くなっている。中型船が行くが見つけきれずに帰ってくるのが現状。秋口の漁場探索の課題が明らかになり、我々業界としても特に8-10月の操業の確立に取り組んで頂きたい。我々も最大限の努力をするので、ぜひ力を貸して頂きたい。 ・ 沿岸漁業のビジネスモデルは、非常に重要な事業。担い手が減っていく中で、沿岸漁業を存続させていくためには、茨城県底びき網に限定することなく、成果をマニュアル化して、よその県でも使えるような形に整理して頂きたい。 <p>以上の意見等を加味して次年度調査を実施することとした。</p>
<p>4) 受託調査について</p>	<p>資源管理開発調査グループサブリーダーから受託調査として開発調査センターが実施したスケトウダラ音響トロール調査の概要について報告した。</p>
<p>5) 研究会の活動について</p>	<p>沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル研究会の趣旨およびその活動状況について研究会事務局から報告した。</p> <p>いか釣り漁業漁灯技術研究会の活動について底魚・頭足類開発調査グループサブリーダーから報告した。</p>
<p>(3) その他</p>	<p>特になし</p>
<p>7. 閉会</p>	<p>担当理事が閉会の挨拶を行った。</p>